

北九州市環境基本計画

副題：環境首都・SDGs実現計画

「真の豊かさ」に
あふれるまちを創り、
未来の世代に引き継ぐ

平成29年度～33年度



北九州市

環境首都グランド・デザインを覚えていますか？

北九州市では、平成16年に、市民・企業・市役所が話し合っ、「環境首都グランド・デザイン」を作りました。

それは、「人と地球、そして未来の世代への北九州市民からの約束」であり、市民、企業、市役所などが一緒になって、「**真の豊かさ**」にあふれたまちを育み、**未来の世代に引き継ぐ**ことを決意しています。

そのため、「北九州市民環境行動10原則」を作り、市民は、モノや自然を大切にすること、環境教育、環境に優しいまちづくりなどを進めることになっています。



環境首都創造フォーラム
(平成15年10、12月)

- 環境首都創造に関する意見募集
- ・期間：平成15年4～12月
- ・1000件以上の応募

- 環境首都創造会議での議論
- ・委員：34名(産学民官)
- ・期間：平成16年3月～10月
- ・全体会議4回、部会10回等



環境首都づくり宣言(平成16年10月9日)

北九州市民環境行動10原則

- 1 市民の力で、楽しみながらまちの環境力を高めます
- 2 優れた環境人財を産み出します
- 3 顔の見える地域のつながりを大切にします
- 4 自然と賢くつきあい、守り、育みます
- 5 都市の資産(たから)を守り、使いこなし、美しさを求めます
- 6 都市の環境負荷を減らしていきます
- 7 環境技術を創造し、理解し、産業として広めます
- 8 社会経済活動における資源の循環利用に取り組みます
- 9 環境情報を共有し、発信し、行動します
- 10 環境都市モデルを発信し、世界に環を拡げます



環境基本計画って？なぜ今計画を変えるの？

環境基本計画は、環境首都グランド・デザインを、行政(市役所)側から取り組むための約束です。

平成27年、世界中の国が集まって、「**パリ協定**」を約束しました。この協定に基づき、今後はもっと温暖化対策をしっかりと進めていく必要があります。

また、平成27年、国際連合の会議で世界中の国が「**SDGs**」(=**持続可能な開発目標**)を達成することを約束しました。

SDGsは、一見難しいですが、環境や教育、福祉、経済成長、平和など、苦しい日々を送っている人々や、これから生まれてくる人々のために、政府や企業を含む、全世界の人々が協力して取り組まなければならない様々な目標を掲げています。

北九州市では、環境首都グランド・デザインに基づいて、以前から、未来の世代に豊かなまちを残そうと取り組んでいます。ですから、**SDGsを10年以上前から取り組んでいた**、ということもできます。

こうした取組を、世界に広げていくため、もう一度グランド・デザインや市民環境行動10原則を思い出して、頑張っていく必要があります。

こうした事情を踏まえて、今回、環境基本計画を変えることとしたのです。

環境首都・SDGsの
実現を目指す計画へ

私たちの暮らしに関係があるの？

環境基本計画は、市役所向けなので一見皆さんには関係がないようですが、実は、日々の生活で様々な影響があります。

例えば、毎日使うエネルギーや製品を環境に優しいものにしていくための取組や、日々のごみ出しや資源回収に関すること、環境学習、PM2.5や悪臭・騒音への対応、自然の恵みの積極的な利用、環境産業による雇用の創出などが盛り込まれています。

また、福祉や防災、コンパクトなまちづくりなど、一見、環境とはあまり関係がなさそうな問題についても、環境面からお手伝いすることとなっています。

新しい計画で北九州市はどう変わるの？

今回の計画では、「市民一人ひとりの環境への取組を強化して、『北九州といえば環境』を国内外にアピールすること」や、「温室効果ガスを出さない社会を目指すこと」、「モノや生き物を大事にする社会を目指すこと」、「様々な市の問題に環境から取り組んで、持続可能な開発目標(SDGs)を達成すること」などが新たに盛り込まれています。

そのために、例えば「再生可能エネルギーの導入量トップ」や、「一般廃棄物リサイクル率の政令市トップ」を目指します。

具体的な変化としては、環境問題とそれ以外の問題の繋がりについて勉強する機会が増えたり、風力発電などの再生可能エネルギーや水素エネルギーの利用がますます身近になったり、これまで捨てられていたごみの減少やリサイクルが進んだり、環境やSDGsに良いことをするとトクになったり、新しい環境技術や環境起業が増えていくこととなります。



©ていたん&ブラックていたん,北九州市

私たちは何をすればいいの？

最近の環境の問題は、昔のような一部の工場からの汚染だけではなく、私たち一人ひとりの日々の生活から出される二酸化炭素やごみなどが原因となっています。

すでに13年前に、「北九州市民環境行動10原則」を決めて、私たち一人ひとりが、この原則に沿って、北九州市に住み、学び、働き、活動することとしています。

この原則をもう一度思い出して、例えば日々の生活の中で、環境に配慮した製品・サービスを買ったり、車ではなく電車を使ったり、買い過ぎを控えてごみをなるべく減らしたり、自然を大事にしたり、環境について勉強したり、地域の環境活動に参加したり、行政や企業に働きかけたりすることが求められています。

北九州市
環境基本計画が
変わりました！





市民環境力の更なる発展と すべての市民に支えられた「北九州環境ブランド」の確立



市民や企業、地域社会の環境に優しい行動を促すとともに、環境に詳しい人材（環境人財）の育成を進めます。また、「環境といえば北九州」というブランドを育て、市民が誇りに思うまち、国内外からも魅力的なまちを目指します。そのために、市民や企業のライフスタイルを変えるための支援や、地域コミュニティやNPO活動支援、環境人財を育てるための教育の充実、環境についての市民とのコミュニケーション、国際協力や北九州市の環境への取組の国内外への積極的なPRを行っていきます。

基本施策① 環境活動と地域活性化の好循環

市民・事業者のライフスタイル・ビジネススタイルの見直しに向け、普及啓発や取組支援を行います。

地域におけるリサイクルや美化運動への取組支援など、地域コミュニティやNPOの活動を推進します。

連携・協働を通じたサプライチェーン全体での事業者による環境活動を推進します。



●まち美化活動

基本施策② ESD等を通じた環境人財の育成

就学前の子どもや高齢者も含めたESD・環境学習を推進します。

北九州まなびとESDステーションやこどもエコクラブなどを通じた若者の横断的連携による市民環境力の更なる推進を図ります。

市内大学、研究機関などと連携し、高度な環境人財育成のための基盤強化を図ります。



○「ていたんポイント」による市民の環境活動推進

基本施策③ 市民間の対話・協働を通じた環境リスクへの対応

環境リスク等に関する対話を推進します。

環境に関する適切な情報の提供と環境リテラシーを養成します。

※リテラシー：与えられた材料から必要な情報を引き出し、活用する能力

協定や表彰、認定を通じて、事業者による自主的な環境リスク対応を推進します。



●エコライフステージ

基本施策④ 国際協働等を通じた北九州環境ブランドの確立

国内外の関係機関と協働して、戦略的な環境国際協力の推進と国際的な環境ブランド力の強化を図ります。

海外環境人財育成を通じた国際的なネットワーク形成を行います。

全庁一丸となって環境分野の国際会議・国内イベントの誘致・開催につなげます。

諸大学や企業との連携強化を進め、本市の有する技術面・政策面での強みを活かし、アジアの技術首都ブランドを確立します。



●環境首都検定



2050年の超低炭素社会と その先にある脱炭素社会の実現



温暖化対策のため、個人や企業の行動からエネルギー、交通、まちづくりなどあらゆる社会のあり方を見直し、二酸化炭素などの温室効果ガスをほとんど出さない「超低炭素社会」、そして全く出さない「脱炭素社会」を目指します。

そのために、工場や家庭における省エネ、コンパクトなまちづくり、公共交通の利用促進、個人や企業・経済や社会のあり方を変えるための研究開発や仕組みづくり、洋上風力発電や太陽光発電、水素などの新たなエネルギー導入、アジアの国々との協力を進めていきます。

基本施策① 超低炭素社会を支えるストック型社会への転換

産業界・都市構造も含めた徹底した省エネ・省CO2を推進します。

太陽光発電、高効率設備の導入、ネット・ゼロ・エネルギーハウスなど、良質な地区街区・住宅・建築物ストックを形成します。

都市部や拠点における緑化施策、森林の適正管理、放置竹林対策、自然景観の保護など、自然資本の維持と利活用を進めます。

橋梁や上下水道施設などの長寿命化、老朽化施設の集約・廃止など、ストックマネジメントによる低炭素化を進めます。



基本施策② 超低炭素社会を実現する社会経済・技術・ライフスタイルのイノベーションと産業クラスターの構築

再生可能エネルギーや水素、ICT/AI、人間工学・高機能素材等による超低炭素化技術開発と産業クラスターの構築を進めます。

規制的手法・経済的手法等を通じた低炭素なライフスタイル・ビジネススタイルを推進します。

環境金融などの金融的手法の検討を進めます。



基本施策③ 次世代エネルギー拠点の総合的な形成

地域エネルギー拠点化を推進します。

水素エネルギー活用の推進を行います。

地域エネルギーマネジメント・スマート化を推進します。

エネルギー人財育成・技術開発を推進します。



基本施策④ アジア規模での超低炭素社会実現

KITA(公益財団法人北九州国際技術協力協会)やIGES(公益財団法人地球環境戦略研究機関)などの関係機関や市内企業と連携し、アジアの超低炭素化に向けた国際協力を推進します。

アジア低炭素化センターが中核となり、民間企業による海外展開を促進します。





世界をリードする循環システムの構築

一般廃棄物リサイクル率
政令市トップを目指します



モ ノ(資源)の循環(原料採取⇒加工⇒流通⇒消費⇒廃棄⇒原料として再度利用)と、自然の循環(生態系や農産物・水産物の循環など)を健全な形で維持することで、両者の調和が図られた社会を目指します。

そのために、ごみの3R(リデュース・リユース・リサイクル)や、リサイクル製品の積極的な利用、災害時にも対応できるごみ処理体制、3Rを担う産業の育成、有害物質の適正な管理とともに、貴重な自然や生態系の保護、ヒアリなどの外来種への対応、自然の恵みの積極的な利用や本市の自然に関する実態把握などを進めていきます。

基本施策① 3Rプラスの推進と資源効率性向上

リデュース・リユース・高度なリサイクルを推進します。

廃棄物処理プロセスにおける資源利用の効率化と廃棄物発電・熱利用の推進によるCO2・エネルギー消費量削減を図ります。

再生資源・再生可能資源の積極利用を進めます。

適正処理の確保を進めます。



基本施策② 循環システムを支える施設整備・技術開発と循環産業都市の形成

安定的・効率的なごみ処理体制・循環システムを支える施設整備とごみ処理の広域連携を推進します。

産業・地域共生としてのエコタウン・循環産業の高度化を図ります。

環境産業ネットワークの構築と大学等と連携した資源循環研究拠点を形成します。

廃電気電子機器など途上国においてリサイクルが難しいものや、雑品スクラップなど貴重な資源を含みながら海外に流出している循環資源に関して、国際資源循環拠点の形成を目指します。



基本施策③ 化学物質や有害物質の適正処理・適正管理

PCBの適正処理を進めます。

水銀・アスベスト等の適正管理を進めます。

化学物質管理を進めます。

フロン対策を進めます。



基本施策④ 生物多様性の確保による自然循環

生態系・場・種の保全を進めます。

森里川海保全への取組を進めます。

自然環境情報の深化・統合と人材育成、ネットワーク構築を進めます。

環境修学旅行やエコツーリズムなど豊かな自然の観光資源としての活用を進めます。





将来世代を考えた豊かなまちづくりと 環境・経済・社会の統合的向上



人口減少や高齢化への対応、防災や地域活性化のため、快適で安心でき、人に優しく、新たな産業や雇用を産み出し、SDGsの達成に貢献するまちづくりを目指します。

そのために、PM2.5などの大気汚染や水質汚染の監視や、開発行為に対する適切な環境アセスメント、気候変動による悪影響の未然防止、環境に優しく災害に強い地域拠点づくり、フードバンクやリユースなどの福祉にも役立つ取組、環境産業における地元人材の活用や国際展開、SDGs達成に向けた市役所内外との連携などを進めていきます。

基本施策① 安全・安心でレジリエント(強靱)なまちづくり

法令に基づく監視・指導などを通じ大気・水・土壌環境等の保全を進めます。

適正なアセスメントと公害防止施策を推進します。

気候変動に対する適応への取組を進めます。

自立分散型エネルギーの活用、災害廃物対策など環境防災力の強化を図ります。

基本施策② 環境と社会にやさしい快適なまちづくり

ストック資源を活用した景観の保全とうるおいのある街並みを形成します。

高齢者・障害のある人等に優しいコンパクトシティ・公共交通を推進します。

セーフティネットの確保・コミュニティの活性化を目指します。

基本施策③ 環境産業育成と国際的なビジネスの推進

地域経済循環圏の推進と環境産業における若年者・女性・高齢者の就職促進を行います。

持続可能な生産と消費を推進します。

FAIS(公益財団法人北九州産業学術推進機構)や北九州市立大学等と連携した環境技術開発・産業創出・生産性向上を目指します。

JCM等海外事業や国際協力を通じた環境産業の海外展開を図ります。

基本施策④ SDGsの実現に向けた取組と環境ガバナンス

SDGs達成に向けたモデル都市化を推進します。

SDGs達成に向けた環境ガバナンスの強化を図ります。



事業所への立入調査



平成28年度
北九州エコプレミアム選定書贈呈式
平成28年10月12日

●北九州エコプレミアムの認定



●ていたんによるSDGsのPR



●シンポジウムを通じたSDGsの発信

SDGs(エス・ディー・ジーズ:Sustainable Development Goals)

- SDGsとは、「誰一人取り残さない」を理念とし、限りある地球の資源を、世界中の人々が公平に利用し、未来の世代に残していく、そのための目標。
- 2015年、国連の全加盟国が合意。
- SDGsは世界の共通言語。
- 2030年までに達成する17の目標を掲げる。

本環境基本計画に盛り込まれた取組とSDGsとの対応関係

2 飢餓をゼロに 	世界をリードする循環システムの構築 <ul style="list-style-type: none">●フードバンクでの有効利用促進、食品ロス削減の取組「残しま宣言」運動の普及・啓発 将来世代を考えた豊かなまちづくりと環境・経済・社会の統合的向上 <ul style="list-style-type: none">●気候変動に対する適応への取組●フードバンク、食品ロス削減	3 すべての人に健康と福祉を 	2050年の超低炭素社会とその先にある脱炭素社会の実現 <ul style="list-style-type: none">●コンパクトシティや公共交通の推進 世界をリードする循環システムの構築 <ul style="list-style-type: none">●化学物質や有害物質の適正処理・適正管理 将来世代を考えた豊かなまちづくりと環境・経済・社会の統合的向上 <ul style="list-style-type: none">●大気・水・土壌環境等の保全●コンパクトシティや公共交通の推進
4 質の高い教育をみんなに 	市民環境力の更なる発展とすべての市民に支えられた「北九州環境ブランド」の確立 <ul style="list-style-type: none">●環境学習、ESD、環境首都検定、エコライフステージ等を通じた環境人材の育成●アジアを中心とした海外からの研修生受け入れ、海外での環境教育実施、など環境国際協力の推進	6 安全な水とトイレを世界中に 	世界をリードする循環システムの構築 <ul style="list-style-type: none">●化学物質や有害物質の適正処理・適正管理●生態系の場・種の保全、森里川海保全 将来世代を考えた豊かなまちづくりと環境・経済・社会の統合的向上 <ul style="list-style-type: none">●大気・水・土壌環境等の保全
7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに 	2050年の超低炭素社会とその先にある脱炭素社会の実現 <ul style="list-style-type: none">●太陽光や風力など再生可能エネルギーの大量導入、水素などの技術開発、風力発電関連産業の総合拠点化●省エネルギーやエネルギーマネジメントの推進●アジア低炭素化センターを通じたアジア地域での再エネ・省エネ推進	8 働きがいも経済成長も 	2050年の超低炭素社会とその先にある脱炭素社会の実現 <ul style="list-style-type: none">●再エネ、エネマネなど地域エネルギー拠点化の推進 世界をリードする循環システムの構築 <ul style="list-style-type: none">●エコタウン・循環産業の高度化●自然の観光資源としての活用 将来世代を考えた豊かなまちづくりと環境・経済・社会の統合的向上 <ul style="list-style-type: none">●環境産業育成と国際的なビジネスの推進
9 産業と技術革新の基盤をつくろう 	2050年の超低炭素社会とその先にある脱炭素社会の実現 <ul style="list-style-type: none">●良質な住宅・建築物ストックの形成●低炭素・エネルギー関連技術開発の促進 世界をリードする循環システムの構築 <ul style="list-style-type: none">●エコタウン・循環産業の高度化 将来世代を考えた豊かなまちづくりと環境・経済・社会の統合的向上 <ul style="list-style-type: none">●気候変動に対する適応への取組、環境防災力の強化●学術機関等と連携した環境技術開発	11 住み続けられるまちづくりを 	2050年の超低炭素社会とその先にある脱炭素社会の実現 <ul style="list-style-type: none">●コンパクトシティや公共交通の推進●都市緑化の推進 世界をリードする循環システムの構築 <ul style="list-style-type: none">●化学物質や有害物質の適正処理・適正管理 将来世代を考えた豊かなまちづくりと環境・経済・社会の統合的向上 <ul style="list-style-type: none">●大気・水・土壌環境等の保全●気候変動に対する適応への取組、環境防災力の強化●コンパクトシティや公共交通の推進
12 つくる責任 つかう責任 	市民環境力の更なる発展とすべての市民に支えられた「北九州環境ブランド」の確立 <ul style="list-style-type: none">●環境学習、ESD等の推進 世界をリードする循環システムの構築 <ul style="list-style-type: none">●3Rプラスの推進と資源効率性向上●フードバンクでの有効利用促進、食品ロス削減の取組「残しま宣言」運動の普及・啓発 将来世代を考えた豊かなまちづくりと環境・経済・社会の統合的向上 <ul style="list-style-type: none">●北九州エコプレミアムや表彰等の推進●フードバンク、食品ロス削減	13 気候変動に具体的な対策を 	市民環境力の更なる発展とすべての市民に支えられた「北九州環境ブランド」の確立 <ul style="list-style-type: none">●環境学習、ESD等の推進 2050年の超低炭素社会とその先にある脱炭素社会の実現 <ul style="list-style-type: none">●超低炭素社会実現への取組推進 世界をリードする循環システムの構築 <ul style="list-style-type: none">●資源利用の効率化、廃棄物発電・熱利用の推進 将来世代を考えた豊かなまちづくりと環境・経済・社会の統合的向上 <ul style="list-style-type: none">●気候変動に対する適応への取組、環境防災力の強化
14 海の豊かさを守ろう 	世界をリードする循環システムの構築 <ul style="list-style-type: none">●漂着廃棄物対策、化学物質等の適正処理・適正管理●生態系の場・種の保全、森里川海保全 将来世代を考えた豊かなまちづくりと環境・経済・社会の統合的向上 <ul style="list-style-type: none">●水・土壌環境等の保全	15 陸の豊かさも守ろう 	2050年の超低炭素社会とその先にある脱炭素社会の実現 <ul style="list-style-type: none">●森林の適正管理等自然資本の維持・利活用 世界をリードする循環システムの構築 <ul style="list-style-type: none">●生態系の場・種の保全、森里川海保全●ヒアリ等外来種の侵入対策●自然資本価値の評価 将来世代を考えた豊かなまちづくりと環境・経済・社会の統合的向上 <ul style="list-style-type: none">●適正なアセスメント
17 パートナリシップで目標を達成しよう 	市民環境力の更なる発展とすべての市民に支えられた「北九州環境ブランド」の確立 <ul style="list-style-type: none">●環境国際協力、環境国際ビジネス、アジア規模での超低炭素社会実現、国際資源循環拠点の形成、環境産業の国際展開などの推進		

お問い合わせ先

北九州市 環境局 総務政策部 総務課
住 所：〒803-8501 北九州市小倉北区城内1番1号
電 話：093-582-2173
F A X：093-582-2196
メール：kan-soumu@city.kitakyushu.lg.jp
平成30年1月 北九州市印刷物登録番号 第1712053B号